



スムーズな離乳のための 哺乳豚管理ポイント

離乳は、幼齢の子豚にとって非常に大きな環境の変化です。この離乳時のストレス(以下、離乳ショック)を和らげることは、農場の成績向上につながります。今回は、離乳ショックを軽減するために必要な分娩舎における餌付け用人工乳と水の管理について紹介します。

養豚研究室

餌付け用人工乳の管理

分娩舎における子豚の栄養源は母乳のみとなります。母乳は子豚の発育に適した栄養が豊富で、子豚を感染症から守る抗体を含みます。そのため、分娩舎における母豚の栄養状態を適切に管理し、泌乳量の確保を行うことが重要とされています。しかし、分娩舎で母乳のみ摂取し、人工乳を食べることに慣れていない子豚は、離乳の際に飼料の形状が大きく変化することで摂食が一時的に止まり、発育に影響を与えることとなります。

この離乳ショックを軽減するためには、分娩舎において哺乳子豚に餌付け用人工乳を給与することで、人工乳に慣れさせることが重要です。餌付け用人工乳に慣れさせるためには、分娩房の保温マットなどの上に餌付け用人工乳をまいたりします。保温マットは、ずれやすいため定期的に分娩舎の見回りをし、正しい位置に設置し直すことも必要です。保温マット

写真. ゴムマットにまいた餌付け用人工乳



は床面から上昇してくる冷たい空気を遮断する役割も担っているので、定位置にあるかその都度確認をしてください。

水の管理

もともと自然環境下では、水が豊富にある環境で生息していた豚にとって、多くの水を飲むことは健康維持に欠かせません。母乳を摂取している子豚にとっても水は重要な栄養素の1つであり、特に乳房炎などで母乳の量が低下している腹では、ウォーターカップなどの給水器具から水を飲むことは子豚の脱水を防ぐ上で重要となります。また、分娩舎で餌付け用人工乳を食べるためには母乳以外の給水が欠かせません。分娩舎で給水器の使い方を覚えることは離乳後の飲水行動につながり、離乳ショックを低減させることができます。

給水器から飲水を行う子豚は、早い個体で分娩初日から現れます。子豚に水を飲んでもらうためには、分娩前から給水器に水を張っておき、給水器に水があることを認識させることが重要です。更に、適切な水の流量を確保するために母豚用ピッカー同様、定期的な給水器の点検・清掃も心がけるようにしましょう。

表1. 1分間あたりの推奨流量と飲水量

	流量(ℓ/分)	飲水量(ℓ/日)
哺乳子豚	0.6	0.5~1.5
体重6~10kg	0.6	1.0~1.5
体重10~40kg	1.6	2.5~5.0
体重40kg以降	1.5	5.0~10.0
妊娠豚	2.0	10.0~15.0
授乳豚	2.0	15.0~25.0

(Lewis et al., 2001)

表2. 各ステージの給水器の推奨位置

	給水器	高さ
哺乳子豚	ウォーターカップ式	10cm
6~10kg	ウォーターカップ式	10cm
10~40kg	ニップル式	25~30cm
40kg以降	ニップル式	50~75cm
妊娠豚	ニップル式	70~90cm
授乳豚	ニップル式	70~90cm

(Swine Nutrition, 2001)